

<p>第 17 号 発行：平成 24 年 4 月 松浦武四郎記念館友の会 会員数：105 名(平成 24 年 4 月 8 日現在) (家族会員=8 名、個人会員=97 名)</p>	<p>松浦武四郎記念館友の会</p>  <p>友の会だより</p>	<p>友の会事務局：松阪市小野江町 383 松浦武四郎記念館内 連絡先：電話 0598-56-6847 Fax 0598-56-7328 発行責任者：飯田 秀</p>
--	--	---

新年度の挨拶

会長 飯田 秀



新年度を迎えて、一言ご挨拶を申し上げます。
平素は松浦武四郎記念館友の会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

年 4 回の友の会誌発行を継続することにより住民の方々のご協力を得て、お陰様で会員数も目標の 100 名に達し喜ばしい事であり、感謝する次第です。

昨年は 4 年がかりで取り組んだ蝦夷山桜の苗木 2 本に花が咲きましたことはこの上ない喜びであり、地域住民のまちづくりにも繋がると確信しています。

武四郎まつりでは 2 年連続で実行委員長という大役を仰せつかり、また会員の方々には多大なご協力をいただきました。第 17 回では新たにアイヌ文化体験コーナーを設けた事で、経験のある会員さんに協力をお願いをして武四郎まつりを盛り上げることが出来ました。

昨年に引き続き武四郎の足跡を訪ねる研修旅行や友の会活動写真展は前回以上の好評が得られました。友の会役員を中心に計画についての話し合い、コミュニケーションの大切さを感じた次第です。斎宮歴史博物館友の会との交流会では、個人的に自分史作りの講習会に参加し、学んだことを武四郎記念館友の会活動史に置き換えて生かしたことは私にとって良い経験になりました。大川会長にはお忙しい中をご出席して頂き、私達は話し合いの中で友愛と連携の必要性を学ぶことができました。今後も事業を通じて和と絆を育む大切さを忘れずに取り組んでいきたいと思ひます。友の会の今後の活動推進には、いろいろと懸念されることが有ると思われまますが、会員懇談会を通じて皆さんの意見やアイデアを聞かせて貰いながら推進していきたいと思ひますので宜しくお願ひ致します。

第 17 回武四郎まつりのご協力お礼

実行委員会 委員長 飯田 秀

昨年は 3 月 11 日の東日本大震災及びその影響による原発の事故とその後の放射性物質の影響など国民にとって日常生活において安全・防災に関心を持つ一年で、普段の何でもない生活や家族・近隣の方々との繋がりについても見直しが行われました。

ことは北海道の釧路支部と三重県の中小企業同友会による出店(武四郎汁のふるまい)、地元の伊勢街道沿いに屋号の表示と幟の設置、釧路の方々の俳句を記した行燈の特別展示など、工夫を凝らした催しも追加できました。お陰様で昨年と同様多くの人出で賑いました。武四郎に関心を持っていただいている多くの方々のお陰だと感謝しています。紙面を借りてお礼申し上げます。

友の会だよりの訂正とお詫び

平成 24 年 1 月発行(第 16 号)の巻頭言において、「会計 斎藤和子」となっていますが、正しくは「監事 斎藤和子」です。訂正するとともに、深くお詫び申し上げます。

会長が地元小学校で出前講座

小野江小学校5年生23名を対象に1月19日（日）10時40分から、武四郎の幼少時代や武四郎とアイヌ民族について教室で話した後、エゾヤマ桜や伊勢街道沿いの屋号看板を現地で説明をさせて貰いました。その後、武四郎誕生地・真覚寺の見学と説明。真覚寺では総括した活発な質問が出た中で、友の会の活動について質問が出ましたので、実情を説明させて貰い出前講座は午前中で終了しました。

後日、児童全員から感想文が届き、その中にはもっと武四郎さんのことを学びたい児童が何人か居られて、やりがいのあった出前講座でありました。

今後も、より多くの子供達に武四郎を知ってもらうためにも、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

第17回武四郎まつりが盛大に開催されました！！

第17回武四郎まつりが2月26日（日）午前10時から松浦武四郎記念館、誕生地、真覚寺を会場に開催されました。武四郎は当時の一志郡須川村で文化15年(1818年)2月6日に生まれ、明治21年(1888年)2月10日に東京で亡くなりました。武四郎まつりは多くの方に業績を知って頂くこと、及び再認識することを目指し毎年2月に開催し多くの皆様が来場されています。

今年はやや肌寒い日となりましたが、近鉄の主催による駅長おすすめハイキングも合わせて開催され多くの方がハイキングの途中に記念館、誕生地、真覚寺にも立寄られ普段は閑静な地域に4300人余りの方々に賑わいました。

例年行われているアイヌ古式舞踊は若手中心のチーム・ニカオプにより、披露されました。

昨年に引き続き、岡久司さんによる北アメリカ大陸の先住民族の楽器インディアンフルート演奏も行われました。

更に北海道中小企業同友会釧路支部と三重県中小企業同友会による「武四郎汁」のふるまいが行われました。友の会としては、記念館入口での書籍の販売、屋外ではアイヌ文化体験コーナー、誕生地及び真覚寺で来場者への案内などを会員のご協力を得て行われました。

ご協力頂いた方々に、厚く御礼申し上げます。

書籍やグッズの販売



友の会の活動紹介(記念館入口で)



誕生地の庭にある石灯籠の

説明をする山本命学芸員



賑う誕生地前



地元の方によるお糸の振舞い(お休み処)

誕生地前でアイヌ衣装を試着し、記念撮影



真覚寺案内担当の
中村さんと中島さん



友の会懇談会が開催されました！！

今年も3月11日に「会員懇談会」が開催され、21名の方が参加され多くの提案がなされました。主な、意見は次の通りです。役員で検討し友の会の事業計画に反映していきたいと思えます。

☆ 多くの県民に知って貰うために、「AROMA」へ友の会活動内容を掲載してはどうか。

⇒市民活動センター内のMブリッジに依頼。

☆ 武四郎が奉納した神鏡を訪ねる旅を今後も続けてほしい。

⇒25年度は与喜天満宮(奈良県)へ計画しては。

☆ ホームページで「友の会誌」を誰もが見られるようにして、会員の拡大を図ってはどうか。

☆ 武四郎の墓参を兼ねた西大台へ行ってはどうか。

☆ 伊勢までを何回かに分けてウォーキングをしては

☆ 「壬午遊記」を読んで興味深く感じたのは近江八幡なのでここで武四郎の足跡を訪ねてはどうか。

☆ 身近な県内で武四郎のゆわれや足跡を訪ねることができる企画を

☆ 斎宮歴史博物館友の会との交流会は昨年で一応区切りがついたので、

今後も実施するとすればお互いの施設のバックヤードを見学する等違った方法が必要。

☆ 市政バス利用の見学ツアーは今後も継続してほしい。

☆ 月一回の講座は今後も継続してほしい。

⇒ 会員の中で講師が出来る方をお願いして50~60分程度の講話を

⇒ 話の内容については武四郎と関係ない話でも良いのではないかと



武四郎さんのお墓に参ってきました！！

武四郎まつりの前々日(24日)に東京へ行く機会があり、お墓に参ってきました。

お墓は染井霊園の中にあり、最寄駅はJR 巣鴨駅・駒込駅で徒歩10分以内です。区画には番号が付されており、「一種(口)10号」に松浦家のお墓があります。

正面真ん中に武四郎(教光院釋遍照北海居士)と妻のとう(量光院釋尼照妙)さんのお墓があり、右隣には「松浦家の墓」として「一雄、孫太、八重子(孫太室)、徳子(圭介長女)などが刻まれていました。左隣にも「松浦(正雄、壽一、馨、久、静江、茂)の墓」と刻まれ、子孫のお墓だと認識でき感慨深く思いました。

又、霊園入り口には管理事務所がありそこでは案内図を頂き、前にはお花屋(山田屋)さんがあり、場所を丁寧に教えてくれます。案内図裏面には霊園内の著名人として岡倉天心、高村光太郎、二葉亭四迷、安岡正篤などが記載され、その中に松浦武四郎の名もありました。(稲垣 記)



染井霊園入り口



染井霊園内の案内図



中央が武四郎ご夫婦のお墓

【松浦武四郎記念館よりのお知らせ】

松浦武四郎記念館 展示のご案内

- ◆武四郎と古物収集 5月13日(日)まで
- ◆武四郎と和歌 5月15日(火)から7月16日(日)まで

武四郎講座のご案内

5月13日(日)は友の会主催の講座が10時から開催されます。6月10日(日)午前10時～
※7月8日(日)午後1時～松阪市産業振興センターにて松浦武四郎誕生地(武四郎の実家)の活用を考える
シンポジウムを開催しますので、講座はお休みします。

【友の会よりのお知らせ】

研修バス旅行の案内・募集

「壬午遊記」には明治15年の武四郎の足跡が記載されていますが、太宰府天満宮へ向かう途中で高砂市の曾根天満宮、石の宝殿等を訪れています。今年のバス旅行は兵庫県高砂市の「曾根天満宮」の神鏡拝観と近辺のゆかりの地を訪ねます。若干、席に余裕があります。参加される方は至急申し込みください。

時期：平成24年5月21日(月) 集合場所・時刻：記念館：7:00、中川駅東口：7:10

主な行先： 曾根天満宮、石の宝殿・生石神社、日笠山散策(高砂市)

会費： 会員6000円、会員外6500円(お弁当とお茶付) 募集人数：35名程度(残り僅かです。)

申込締切日：4月25日(先着順) ☆参加希望者は 松浦武四郎記念館 0598-56-6847迄

友の会総会のお知らせ

平成24年度の総会を5月13日(日)に斎宮歴史博物館友の会大川会長の特別講座(10時から)の後、11時頃から開催します。